

# 高島出身・桜美林学園創立に尽力

# 教育者・清水安三の功績 エピソード交え紹介

「なまほし」で居室のベッドを整える林理事長  
(長浜市川)

「なまほし」を設けた。ホームの開設は市内で初めてで、にじまちの林智子理事長(51)はホームを「子どもの自立を促すとともに、子どもが家庭で過ごしていると思えるような温かい場所になりたい」と抱負を語る。

元小学校教諭の林さんは、2020年から市内の古民家でフリースクールを運営する中で自立援助ホームの存在を知った。長浜市内にはまだ設置されていないことが分かり、運営主体となるNPO法

きょう 葵祭

現在の高島市新旭町出身で、桜美林学園(東京都)創立者の清水安三(1889年11月1日～1968年)をテーマにした講演会が同町で開かれ、前桜美林大学長の三谷高康さんが「清水安三先生と私」と題して語った。新島襄が創設した同志社と安三との関わりをエピソードを交えて紹介し、教育者としての功績を挙げ「同志社での新島研究と同じように、安三研究も行われてほしい」と呼びかけた。

安三は同志社大神学部を卒業後、20代半ばに宣教師として中国に渡り、北京で貧困層の少女に向けた教育機関の崇貞(こうせい)読女学校(後に崇貞学園)を設立。1946年に桜美林学院(広島市)の院長・大学

園を創立し、66年に四年制大学を開学した。三谷さんも同志社大神学部卒。2018年まで6年間桜美林大学長で、現在は広島女学院(広島市)の院長・大学

清水安三先生  
共催 清水安三顕彰会・清水



清水安三の写真(右)をスクリーンに映しながら講演する三谷さん—高島市新旭町旭1丁目・新旭公民館

## 前大学長講演 「新島襄が大好きだった」

長を務める。安三との接点は学生の時、同志社大が安三に贈った名誉神学博士号の授与式に立ち会ったことで「やぎひげのくたびれたおじいさんだった」とユーモアいっぱいに振り返った。

三谷さんは、安三が同志社大で講師をしていた1933年、崇貞学園の生徒が作った手芸品を外国人宣教師に販売し、当時の総長から「教育者に適していない」とがめられ、即座に辞職したエピソードを紹介した。

三谷さんは「それでも安三は新島のことを大好きだった」と強調し、京都市左京区の若王子山頂にある新島の墓にひっそり訪れたことや「大学の設立こそは少き日に新島襄に享けし夢かも」と残した歌を披露。「同志社は追い出した男に名誉を与えた」と笑みを浮かべた。

ほかに安三が日本の敗戦後の46年3月に帰国し、東京で偶然出会った旧知の社会運動家、賀川豊彦の協力を得ながら、わずか2カ月間で桜美林学園設立の認可を受けたことなどにも触れた。三谷さんは「中国であれ日本であれ、そこにいる人たちのために何が最も必要とされているかという視点で教育を行った」と評価した。

講演会は地元の「清水安三先生顕彰会」が新旭公民館講堂の一環として毎年開催。今回は2月に同公民館であった。

(山合了輔)

キサミ

